

## ■ ユーロ/ドルの下値リスクに要警戒！？

2/16以降のドル指数（ドルインデックス）の出直りが一層顕著になってきている。

昨日（2/28）の外国為替市場でも、ドルは円以外の主要な通貨に対して強含みで推移し、結果的にドル指数は1月中旬あたりから形成してきたダブルボトムのネックラインを上抜ける動きとなってきている。1日だけの動きで確たることは言えないが、ここで明確にダブルボトムを完成させることとなれば、当面のドルの上値余地は全体に拡がりやすくなると見られる。

周知のとおり、一昨日（2/27）行われた米下院金融委員会においてFRBのパウエル議長がタカ派寄りの証言を行ったことで、市場の一部には「年4回の米利上げ観測」が台頭しており、そのことがドルを買い支える動機の一つにもなっている模様だ。

逆に、昨年（2017年）を通じて基本的に強気の展開を続けたユーロ/ドルが足下でやや劣勢となっている。下図でも確認できるように、ユーロ/ドルの場合はドル指数とは真逆で、今まさにダブルトップの転換保ち合いフォーメーションを完成させる可能性が高まってきている。

少なくとも、昨日のユーロ/ドルの終値はダブルトップのネックライン水準（1.2206ドル）をあっさり下抜けており、さらに本日（3/1）は一目均衡表の日足「雲」のなかに潜り込む格好となっている。もともと21日線の上値抵抗が強かったわけであるが、これで日足「雲」上限という上値抵抗も意識せざるを得なくなった。

おまけに、日足の転換線が日々線を下抜けてきており、そのことが当面の弱気ムードに拍車をかけかねない。昨年9/8高値から11/7安値まで一時調整した場面でも日足の遅行線が日々線を下抜ける場面は確認されており、やはり「これは当面弱気のサイン」となる可能性が高い。



周知のとおり、3/4にはイタリアで総選挙が行われる運びとなっており、その結果に対する不透明感が目下のユーロ相場を重苦しくしている一因。どのような結果になっても、そこから一気に視界良好となることは期待できそうにない、むしろユーロ弱気の原因を増やす可能性もある点には留意しておきたい。

加えて3/4にはドイツの第2党、社会民主党（SPD）において党員投票の結果が判明する見通しにもなっている。第1党であるキリスト教民主同盟（CDU）との大連立が投票によって認められれば、ようやく3月半ばにも新政権発足と相成るが、いまだ連立合意が白紙に戻る可能性も残されており、当然のことながら今回の結果からは目が離せない。

なお、パウエル FRB 議長のタカ派寄りの姿勢が米金利を押し上げる一方で米株価を極めて不安定な状態にしていることも事実である。連れて乱高下する日本株の動きによってドル/円の上値が重くなる状況でもあり、今しばらくは米・日株価の値動きからも目が離せない。

(03月01日 11:20)